



| | |
|------------------|---|
| Title | 研究会報・編集後記 |
| Citation | 独語独文学研究年報, 34, 39-42 |
| Issue Date | 2008-03 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/32441 |
| Type | bulletin (article) |
| File Information | 3.pdf |



[Instructions for use](#)

研究会報

講義題目（２００７年度）

〔学部〕

| | | | |
|------------|---|----------------|----|
| ドイツ語学概論 | ドイツ語の構造とその背景 | 清水 | 誠 |
| ドイツ語学 | ドイツ語学文献の読みかた 〇 7 | 清水 | 誠 |
| ドイツ語学演習 I | ドイツ語学文献読解 〇 7 | 清水 | 誠 |
| ドイツ語学演習 II | 古ノルド語演習 | 清水 | 誠 |
| ドイツ語学演習 II | 中世ドイツ語の初歩 | 清水 | 誠 |
| ドイツ文学史概説 | 文学史記述の諸問題 | 山田 | 貞三 |
| 独文学史概説 II | 近代以降のドイツ文学 | 山田 | 貞三 |
| ドイツ文学演習 I | 変身の物語 III | 山田 | 貞三 |
| ドイツ文学演習 II | メタモルフォーゼ III | 山田 | 貞三 |
| ドイツ文学演習 I | 短編小説を読む | 藤本 | 純子 |
| ドイツ語学 | Interkulturelle Lernstrategien I | Christine Kühn | |
| ドイツ語学演習 I | Basiskurs Kommunikation II | Christine Kühn | |
| ドイツ語学演習 II | Deutsch Spezial I : Fernsehen | Christine Kühn | |
| ドイツ文学演習 I | Basiskurs Kommunikation I | Christine Kühn | |
| ドイツ文学演習 II | Interkulturelle Lernstrategien II | Christine Kühn | |
| ヨーロッパ言語文化論 | Deutsch Spezial II : Zeitung (BunBung VI) | Christine Kühn | |
| ドイツ文学 | フォトストーリー I | Barbara Klema | |
| ドイツ文学 | フォトストーリー II | Barbara Klema | |

〔大学院〕

| | | | |
|-----------------|--|----------------|----|
| ドイツ語学ゲルマン語学特別演習 | ドイツ語学の諸問題 〇 7 | 清水 | 誠 |
| ドイツ語学ゲルマン語学特別演習 | ゲルマン語学の諸問題 〇 7 | 清水 | 誠 |
| 言語分析論特別演習 | 歴史比較言語学研究 〇 7 | 清水 | 誠 |
| 博士論文指導特殊演習 | | 清水 | 誠 |
| ドイツ文学特別演習 | Germanistik und Kulturwissenschaft 〇 7 - 1 | 山田 | 貞三 |
| ドイツ文学特別演習 | Germanistik und Kulturwissenschaft 〇 7 - 2 | 山田 | 貞三 |
| 博士論文指導特殊演習 | | 山田 | 貞三 |
| ドイツ語ドイツ文学特殊講義 | Kulturvergleichende Studien I | Christine Kühn | |
| ドイツ語ドイツ文学特殊講義 | Kulturvergleichende Studien II | Christine Kühn | |

研究会行事記録

1. 2007年2月19日に北海道大学文学部 W 205号室（新棟2階）において2006年度修士論文・卒業論文発表会が開かれた。
2. 2007年7月3日の総会にて、幹事選出等が行われた。

2006年度 独語独文関係の論文題目

卒業論文

渡辺 ゆ み : グリム童話の深層 —『魔女』をめぐって—

修士論文

相崎 幸彦 : ドイツの英語教育 —欧州統合と CEF から見たドイツの外国語教育—

瀬戸 奏 : 衣服を中心とした流行 ～ジンメルの流行概念と現代の流行現象～

博士論文

真貝 恒平 : ドイツ文筆家保護連盟 (Schutzverband Deutscher Schriftsteller: SDS) 活動史 (1909-1933)
—世紀転換期からワイマール共和国期にかけての文学活動—

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため、下記の事業を行なう。
 - 1) 機関誌「独語独文学研究年報」を毎年1回発行する。
 - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会会員は北海道大学大学院文学研究科・独語独文学関係の教官・院生ならびにその趣旨に賛同するものによって構成される。

本会会員は上の活動の遂行のため所定の会費を払う。

本会は1名の会長と若干名の幹事をおく。幹事は会計および編集委員を兼任する。

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。

本会の事務局は北海道大学大学院文学研究科におく。

本会に賛助会員をおく。

☆ 論文執筆要項

1. 論文審査
 - 1) 本誌は論文の掲載に関して審査を行う。
 - 2) 論文の採否は審査委員が決定する。その際、原稿への加筆、修正などを求めることがある。採否の結果は、編集委員会が投稿者に通知する。
 - 3) 審査委員は、編集委員会から委嘱を受けた本会所属の教員数名がその任にあたる。
2. 原稿執筆規定

執筆申し込み : 執筆希望者は、各年度の5月に行われる総会の前日までに、その旨を編集委員会に申請すること。

ページ数 : 20ページ程度。1ページの文字数・行数は任意。ただし35～37行程度が望ましい。

原稿の大きさ : A4。

論文題目 : 原稿1ページ目の最上段中央に、太字またはゴシックで多少大きめに記載する。二行にわたっても構わない。また、別紙にドイツ語または他の欧文による題目を記載する。

注釈・文献 : 注釈は脚注または奥付けとする。注釈番号はアラビア数字で右括弧付き。

執筆者氏名 : 原稿1ページ目の3行目(題目との間に1行あけること)、太字またはゴシックで右端に記載する。

身分の明記 : 原稿末に丸括弧つきで、右寄りで所属機関・職名を明記する。

締め切り : 10月31日。

会 員 名 簿

| | | | |
|---------|---------|----------|----------|
| ※青柳 謙 二 | 阿 部 和 夫 | 石 原 次 郎 | 伊 藤 祐紀子 |
| 岩 井 洋 | 岩 田 聡 | ※植 木 迪 子 | 梅 津 真 |
| 岡 崎 朝 美 | 川 崎 良 江 | ※川 島 淳 夫 | 川 嶋 幸 子 |
| 岸 川 良 蔵 | 岸 本 明 子 | 熊 坂 亮 | 佐 藤 修 子 |
| 佐 藤 俊 一 | 塩 谷 幸 子 | 清 水 誠 | シャイフェレ馨子 |
| 神 久 聡 | 真 貝 恒 平 | ○杉 浦 康 則 | 鈴 木 将 史 |
| 瀬 尾 慎 一 | 高 橋 修 | 高 橋 希 衣 | 田 中 剛 |
| 対 馬 晃 | 寺 田 龍 男 | 戸 松 豊 | ○中 村 寿 |
| 中 祢 勝 美 | 名 執 純 子 | 名 執 基 樹 | 西 川 智 之 |
| 西 出 佳 代 | 野 村 まり子 | 藤 本 純 子 | 松 橋 知 子 |
| 三 浦 國 泰 | 最 上 英 明 | 森 田 一 平 | 山 田 恵 子 |
| 山 田 貞 三 | 山 田 善 久 | 吉 川 千 穂 | |

◎は会長

○は幹事

※は名誉賛助会員

編 集 後 記

レフェリー制を導入して7年目となりました。掲載論文は厳正な審査を受けた論文です。ご多忙中、快くレフェリーを引き受けてくださった方々には、この場を借りて深く感謝申し上げます。

編集委員一同